

第49回フラワーメッセージ「心の花束」にご登場頂いたのは、市民による花の会の先駆けとして昭和57年(1982)に設立以来、「日本の空の玄関」成田市を花と緑でいっぱいにする活動を続けている「なりた花の会」の小川善嗣さんです。

友よ、花咲城の石垣となれ

NPO法人なりた花の会会長

小川善嗣

まち行く人々の心の中にもうるおいとやすらぎを、『花づくりは人づくり、人づくりはまちづくり』。それを思いに、さらには『咲かせよう 街に心にきれいな花を』のフレーズを胸に抱いて花と緑の運動を推進してきました。「なりた花の会」が活動を開始してから37年が過ぎようとしています。この間、延べにして二百名を超える会員の皆様方と活動を共にできたことを大変嬉しく思います。現在は、18名の会員で事業運営していますが、会員はもとより、そのご家族の深いご理解と協力には常に頭が下がります。併せて、本誌編集の公益財団法人花と緑の農芸財団、また農事組合法人花の生産組合様には格別の事業協力をいただき、この誌面をお借りして心から感謝御礼を申し上げます。

私は、長年に亘り花の輪(人の輪)運動と称したこのまちづくり事業に参加した者として、同じく活動を共にする多くの皆さんの活動の栄養源に少し

予算32万円を庁内担当部所で確保してほしい旨提案をしました。実際の活動は、後に当会会員としてご協力をいただくことになる市職員の方々です。年が明けて、翌年度予算の市長査定

の場でした。私は「職員でありながら、提案者として査定の場に呼ばれました。多くの幹部職員の視線が私に向きました。出た声は、内容は良いが一年間飾りきれぬのか? また役所が事業

所として予算を持つなんて...など、この場合は30才の私にとつて針の筵と化しました。

するとその時、財政課長から一声:「市長さん他皆様方に私から一言申し上げます。共に同じ職員から職場のイメージアップを図ろうと提案があったもの、ここでは後輩職員を信じて予算化しましょうよ。まず

はやってみてもらいましょう」と心温まる言葉を頂戴しました。私が38年間継続するこの運動の中で、思えばその原点となった感動の一場面でした。

それにしても、あの時あの場面での一言を頂戴していなかったら今の自分はないし、当会の初めての仕事も成り立たなかったかもしれません。これらを契機に、会が発足して10年が過ぎると地元自治体とは相互の信

でもなればと思ひ、私の活動の原点と歩み、そしてその考え方について思いつくまに触れてみました。思えば、あれは38年前の春のことでした。当時、成田市役所職員であった私のもとへ突然尋ねてこられた方が、現在の本誌財団役員である宇都宮高明さんでした。その要件は、「互いに様々市民運動を重ねる中で、これからは花の時代がやってくる:花と緑をテーマにした新しいまちづくりをやってみないか」とのことでした。

時に私は、市職員としてすでに11年が過ぎていました。仕事の面では、配属先の仕事にとどまらず何でもこなすよる担当職員として、私的な面では、青少年福祉活動をいずれも市民運動化する中で先導役に立つ自分がいたことを覚えています。そんな自分に、宇都宮さんから舞込んだ花と緑で新しいまちづくりをしようという発案は、大変斬新にとらえました。当然ながら活動団体の発足準備、そして結成となり、会長には、成田市内の小学



夏のJR成田駅東口広場



7月の駅前・市役所通り



会員による植込み作業



街中ポケットパーク和風花壇

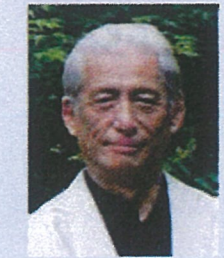


駅前広場・大型プランターによる飾りつけ

頼関係により、官民一体、市民協働の

考え方により、例えば街中のメイン通りの歩道部分に花壇ブリスを市が工事整備し、そこに当会が植栽するなど事業はスムーズに行われました。他にも関連事業を共に実施するなど、こ

れらは新しくまちが変わってゆく大変大きな節目となり、必要な事業を市が委託事業として出してくれるなど、当会としても事業の骨格を成すに至りました。



小川善嗣(おかわ よしつぐ):昭和28年(1953)2月、千葉県成田市生まれ。農業高校時代、先進農家に長期研修生として参加。卒業後にメロン栽培団地の法人化を試みるも断念。当時の成田市長からの助言により成田市職員となる。以降、農政・総務・教育・観光の分野で19年間勤務。その後市議会議員として地方政治の道を16年間歩み、その間一環して、青少年・福祉・環境分野において社会貢献活動をリードした。花の会は発会準備から参加以後事務局を担当し、平成14年からは会長職を務め現役。

※他の事業についても、活動状況など「なりた花の会」ホームページ(<http://www.narita-flower-style.com/>)でご検索ください。私はこのように考えます。この事業に携わる者として、人を思いやること、思われたらそれに応えること。この事業を継続するには、実は花が好きとか社会貢献に思いをよせるのは二の次であつて、本当は必要な時に官も民もなぐ相手の立場を思いやれることが一番なのです。

私は、以前市議会議員として16年間、常に一般質問の場でフローラルシティ成田の実現を題目として発言して

きました。フローラルシティとは、花いっぱいとか花のようななどという意味をもち、やすらいでいやされる、見た目も気持ちもそんなほのぼのとしたまちだと信じているからです。標題に示した花咲城とはフローラルシティ、まさにやすらげる自分たちのまちのことです。この運動への参加は、個の立場でそれぞれが自覚と責任を持ち、花咲城を築き上げるためにその石垣、基礎石の一つになる覚悟がなければとても成り立たないものと考えます。やりがい、生きがいを感じながらの活動は大変良いことです。でも、花という生きものとおつきあいするには、一種の使命感を持つことが求められると考えます。当会は、昭和に生まれて平成に育てていただきました。是非とも令和の新しい時代には大輪の花を咲かせたいのです。

頑張ります:花咲か爺さんと呼ばれる日まで